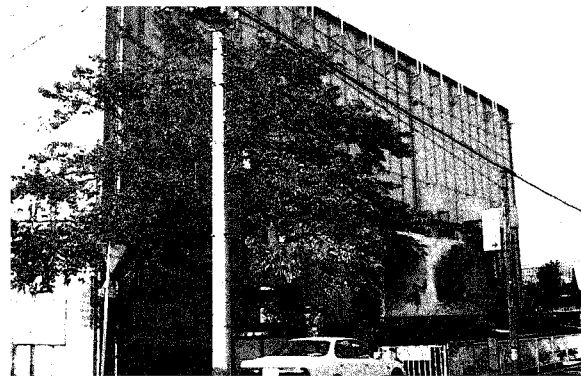


鮎躍る 桂川育ち 下水道

(下水道事業キャッチフレーズ)

流域下水道で建設される幹線は、大部分が交通量の多い国道一三九号の下へ埋設するため、道路上から掘り下げて工事をするのは、いろいろな不都合が生じることから、今回進められている工事は、シールド工法と呼ばれる特殊な工法で施工しています。この工法は、大きな立坑を掘り、もぐらのような機械（シールド機）を投入し、道路下を掘っていきます。このシールド機の発進するところが、谷村町駅前ほか、市内に四つ建っている大きな建物で「基地」といわれるものです。基地の役割はこのほかに、掘削して出た土を取り出し運搬する場所としても重要な役割を担っています。



この大きな建物なあに？

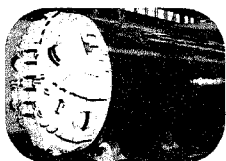
工事はどこまで進んでいるの？

市内に建設されている流域下水道は、桂川一号線と呼ばれ富士吉田市富士見台を起点に、西桂町、都留市を縦断し、大月市梁川町に建設される桂川清流センターまでの約二十六キロメートルの一部として建設工事が進められ、市内全体で五〇%の掘削が終了しています。

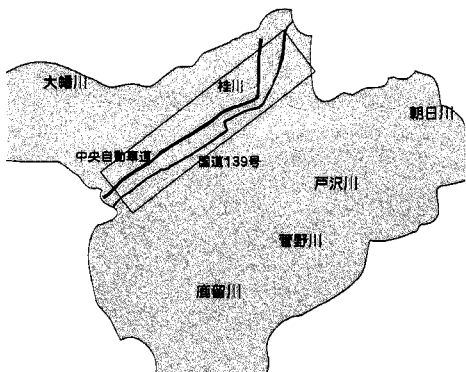
シールド工法で現在幹線を掘っているのは、田野倉地区と谷村地区で約七〇%が終了しています。また、開削工法で施工している都留インター横の基地から禾生までの側道は、既に終了し、天神バイパスも七〇%終了しています。今後、下図の場所を順次施工していきますので、引き続きご協力をお願いします。

なお、東桂地区においては平成十一年度以降の工事予定ですが、現在検討中ですので、決定次第お知らせします。

また、流域下水道へつなぐ公共下水道は、第一期工事の禾生地区が、平成九年度末で約三〇%を終了する予定になっています。



基地から幹線を掘るシールド機



上図囲い部分の拡大図

